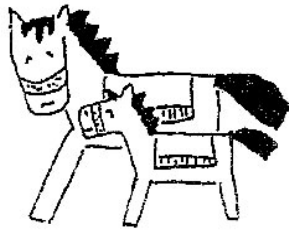


お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと



令和5年 7月 No. 344

〒760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松第二保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<https://oumanooyako.com>



(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～			7月の主な活動	～お気軽にどうぞ～
7月	7日 14日 28日	金	ヨーガを楽しむ会 14:30～16:00	頭から足まで体に感謝し、 大切に動かしてみましょ。
7月	20日	木	こうさぎおはなし会 15:00～16:00	みんなが大好きな絵本や手遊びもあります。 みんなおいで!
7月	21日	金	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	百十四銀行リテール推進部の大西賢一氏に 相続についてのセミナーをお願いしています。 どなたでもどうぞおいで下さい。
7月	26日	水	自然の中の遊び体験 15:30～16:30	「虫を探してみよう」をテーマに生き物の 暮らしの知恵や不思議を知りましょ。
7月	29日	土	子育てに役立つ小物作り 14:00～16:00	画用紙マジック「くるりんパッ!」で 画面が色々変わる面白さがあります。 みんなで作ってみましょ。
7月	11日 25日	火	体験保育 15:00～16:00	園見学も兼ねて遊びに来てみませんか?

・火～土の9:00～18:00までは、園内開放して
いますので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談(月～土) 9:00～18:00
しつけや子育てについての悩み、保育園生活
入園・見学についての相談もどうぞ。



金子みすゞ童謡全集④
「空のかあさま」より

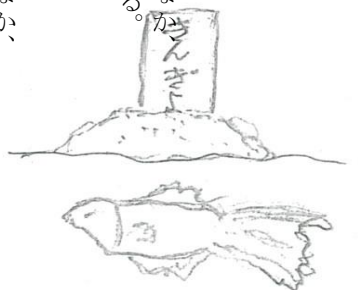
冷たい、冷たい、土のなか、
金魚はなにを眺めてる。
金魚屋の荷のなかにいた、
むかしの、むかしの、友だちを。

静かな、静かな、土のなか、
金魚はなにをきいている。
夜のしぐれのあしおとを。

暗い、さみしい、土のなか
金魚はなにをみつめてる。
夏のお池の藻の花と、
揺れる光のまぼろしを。

金魚のお墓

はか



☆今月の内容 — ・雨の名前 ・衣替え ・勤劳意欲 ・自分の意見
・クチナシの香り ・ここぞという時

「職場の教養」(倫理研究会)より



○ 雨の名前

多くの地域で途切れることなく雨が降り続く、梅雨の季節となりました。

梅雨の時期はカビが発生しやすく、掃除や洗濯を煩わしいと思う人も多いのではないのでしょうか。そのためか、中国では梅雨を黴（カビ）の雨では「黴雨（ばいう）」と表記します。

また、傘を差すのが億劫で出不精になっている人もいるかもしれません。そんな時こそ、この時期にしか味わえないものを見つけてみましょう。

例えば、紫陽花や花菖蒲は、雨に打たれて生き生きと咲き誇り、色も一層鮮やかに見えます。雨だからこそその美しい景色、風情があるものです。

昔の人々は雨に大きな関心を寄せていたようで、日本には雨の呼び名が四百種以上あるといわれています。

連日降りつづく雨を、「宿雨（しゅくう）」、日照り続きの時に降る恵みの雨を「慈雨（じう）」、草木の青葉に降る雨を「翠雨（すいう）」、晩秋に降るにわか雨を「秋時雨（あきしぐれ）」と呼ぶように、状況や季節に応じた呼称は、日本人の豊かな感性がうかがえます。

雨の魅力を再発見し、梅雨の日々も晴れやかな心で過ごしたいものです。

○ 衣替え

中国の風習である「衣替え」を日本が取り入れたのは平安時代のことです。貴族だけが年2回、夏と冬の装束を入れ替えていました。

江戸時代になると、幕府が武士の衣替えを制度化しました。しかし、庶民は手持ちの着替えに限られているので冬の間は綿入りの着物を着て、春になると綿を抜いて春用に仕立て直しました。

伝統的な着物の文化では、季節に応じて「着分け（きわけ）」という衣替えをします。その季節に相応しい色や柄を選ぶ際には、実際の季節より一足早い柄を選びます。桜が満開のときに桜柄の着物を着るのは野暮だということです。

現代では、学生の制服が冬服から夏服に替わるとき、オフィスで「クールビズ」の取り組むときなどが衣替えを実感できるときかもしれません。

クールビズは、地球温暖化対策の一環として始まりましたが、持続可能な社会の実現のためにも、衣類を定期的に手入れすることで、長く使えるという衣替えの文化を大切にしたいものです。





○ 勤労意欲

高齢化が進む日本では、65歳以上の高齢者が、令和3年10月現在で3600万人以上となり、総人口の28.9%を占めるまでに増加しています。

世界最高の高齢化率である日本は、高齢者の就業率が年々上昇し、65歳から69歳で、50.3%、70歳なら74歳で32.6%の人が就労している状況にまでなっているのです。

就業率が、今後どのようになるかは分かりませんが、収入のある仕事をしている60歳以上の約4割が〈働けるうちはいつまでも働きたい〉と考えており、就労意欲の高さが続く限り、高齢者の就業率が下がることはないでしょう。

体力や記憶力の低下など、高齢者には避けて通れない面もありますが、一般に高齢の人は、長年の経験と豊富な知識を持ち合わせており、指導力や統率力にも長けている人が少なくないといわれています。

雇用する側ら、高齢者の就業環境を整え、働く側は心身の健康増進を図りつつ、年齢を気にせず培った経験を存分に発揮したいものです。

○ 自分の意見

サラリーマンのY氏は、小学生の息子が音読するイソップ寓話「ロバを売りに行く親子」に耳を傾けていました。概略は次のような内容です。

父親と息子が、飼っていたロバを売りに市場へ向かう途中、ある人から「乗らずに歩いているとはもったいない」と言われ、父親は息子をロバに乗せました。

しばらく行くと「親を歩かせるとはひどい」と別の人から言われ、今度は父親がロバに乗ると、また別の人から「子どもを歩かせるとは悪い親」と言われたのです。

そこで二人でロバに乗ると、別の人から「可哀そうだ」と言われます。困った親子はロバを担ぐと、嫌がって暴れたロバは川に落ちて死んでしまいました。

読み終わった息子は、「意見を聞くことは大切だけど、どんな選択をしても反対意見があるのだから自分の意見を持つことが大切だ」と感想を述べたのです。

これを聞いて、Y氏は自分も職場で、人の意見に流されることが多いなと思ひ至りました。相手の考えを尊重しつつも自ら考え、主体性を持って仕事に取り組もうと決意したY氏です。



○クチナシの香り

薄月夜 花くちなしの 匂いけり

これは俳人の正岡子規が、雨雲で月も薄れてしまう夏半ばの夜に、ふとクチナシの花の香りを感じた様子を詠んだものです。

俳句にも表れているように、その白く可憐な姿以上に「甘い香り」の際立つクチナシ。春のジンチョウゲや秋のキンモクセイと並んで「三大香木」と呼ばれ、現在でも多くの香水に用いられています。

また、クチナシの実には、黄色い色素を含有し、天然の、食用着色料としても利用されています。サツマイモや栗の甘露煮、たくあんなどの着色で古くから私たちの生活を彩ってきました。

〈学生の頃に嗅いだ懐かしい花の香りだ〉〈昔食べた母の手料理の味に似ている〉など、五感から呼び起こされる思い出も多いことでしょう。

クチナシの花言葉の一つに「喜びを運ぶ」とあるように、身近な香りや味が運んでくれる、小さな幸せを受け取りたいものです。

○ここぞという時

子どもが危険なことをした場合や、人に迷惑や危害を与えた場合、親は躰として子どもを叱ることが必要でしょう。

Aさんが子どもの頃、公共の場でいたずらをするとうち親に叱られることが度々ありました。そこで「自分は親になったら、あまり叱らない大人になりたい」と思っていました。

ところが、親になったAさんは、わが子が急に道路に飛び出したり、公共の乗り物の中で騒いだりした時、厳しく叱っていたのです。些細なことでも「ここぞ」という時は叱る必要性をAさんは、実感するようになったといいます。

振り返ってみると〈父親も必要に応じて自分のために叱ってくれていたんだ〉ということに思い至ったのです。

自分が親になってから、Aさんは改めて父親からの愛情の深さに気づかれました。子どもに対して、お互いを認め合う関係を保ちながら叱るときには叱り、共に成長していけるよう日々過ごしていきたいものです。



「職場の教養」（倫理研究会）より